

**特殊報第 1 号**

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成 2 0 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号について

このことについて、病虫害発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

**メロン**

- 1 病虫害名           メロン退緑黄化病（仮称）
- 2 病原ウイルス名   Cucurbit chlorotic yellows virus : CCYV（仮称）  
                          （クロステロウイルス科クリニウイルス属）
- 3 特殊報の内容
  - （1）初発生確認の経緯  
        平成 2 0 年 7 月中旬、京都郡みやこ町のメロン（夏どり）において、上位葉から中位葉に黄化症状が発生した。当防除所にて、RT-PCR 法により検定した結果、本ウイルスによるメロン退緑黄化病（仮称）であることが明らかになった。  
        なお、本県では平成 2 0 年 2 月に、本ウイルスによるキュウリ退緑黄化病（仮称）の発生が確認されている。
  - （2）感染植物  
        現在までに感染が確認されている植物はキュウリ、メロン、スイカである。
  - （3）症状及び被害  
        発生初期は、葉に退緑小斑点を生じるのが特徴で、その後、小斑点が拡大・癒合し、斑点状あるいは葉脈沿いに緑色が残る黄化葉に進展する。  
        メロンでは、果実の肥大が不良となり、果重及び糖度の低下が認められる。発病時期が早いほど、品質や収量へ与える影響も大きい。
  - （4）伝染方法  
        現在、本ウイルスはタバココナジラミバイオタイプ Q によって媒介されることが明らかになっているが、病原ウイルスの特性については明らかになっていない。  
        なお、クロステロウイルス科クリニウイルス属のウイルスは、コナジラミ類が半永続的に伝搬し、経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染はしない。

#### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 0.4mm目以下のネットを使用し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止するとともに、侵入した個体を薬剤で防除する。特に、育苗期から生育初期に感染した場合、経済的な被害につながるため、この時期の対策を徹底する。
- (2) 黄色粘着トラップを施設内に設置し、媒介虫の早期発見に努める。
- (3) ほ場内やほ場周辺の雑草は媒介虫の発生源となるので、除草を徹底する。
- (4) 発病株は伝染源となるので、直ちに抜き取り土中深くに埋没するか、ビニル袋に入れて完全に枯れるまで密閉処理する。
- (5) 施設栽培終了時には、ハウスを密閉して蒸し込み、媒介虫を死滅させる。



写真 1

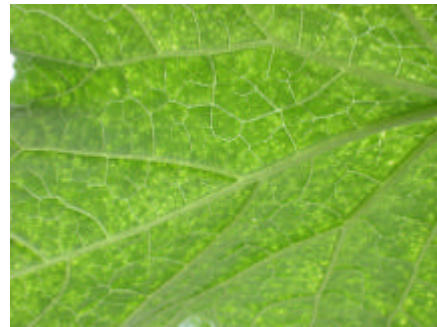


写真 2



写真 3



写真 4

- 1 発病ほ場（熊本県農業研究センター提供）
- 2 初期病斑（熊本県農業研究センター提供）  
不整形の退緑小斑点
- 3 黄化症状  
葉脈及び緑斑を残し黄化
- 4 黄化症状末期（九州沖縄農業研究センター提供）